

A.1.4 GPIB コマンド一覧

1. FUNCTION 拡張 (テスト・アダプタの測定経路切り替え)

- 機能 マルチ・ポート・テスト・アダプタの測定経路切り替え
キャリブレーション・データと測定条件高速切り替え機能

マルチ・ポート・テスト・アダプタの測定経路とキャリブレーション・データおよび測定条件を同時に設定します。

自動的に拡張メモリ領域のキャリブレーション・データと測定条件が再生されます。ただし、キャリブレーション・データと測定条件は、後述の校正機能拡張により拡張メモリ領域に一時保存されている必要があります。

一時保存が実行されていない測定モードを当コマンドで指定した場合は、直前の設定 (キャリブレーション・データと測定条件) がそのまま流用されます。

注意 一時保存が実行されていない場合、テスト・アダプタの測定経路の切り替えのみ実行されることになります。

- コマンドとクエリの存在
Command/Query

- 新コマンド

コマンド [SENSe:]FUNCtion[<chno>]:SElect MPATh<path>

パラメータ <path>={11|12|11|12|122|21|122|12|22} (*注)
(*注) R3967 OPT10 (5 ポート・テスト・アダプタ) の場合は、
"11|12|11|12|122" のみ有効

応答形式 MPAT11|IMPAT12|IMPAT11|IMPAT12|
MPAT21|IMPAT22|IMPAT21|IMPAT22

- 旧コマンド

コマンド MPATH{11|12|11|12|122|21|122|12|22}

応答形式 110

2. 校正機能拡張 (キャリブレーション・データと測定条件の一時保存)

- 機能 マルチ・ポート・テスト・アダプタの測定用キャリブレーション・データと測定条件の一時保存機能

当コマンドは、拡張メモリ領域にキャリブレーション・データと測定条件を一時保存します。

この拡張メモリ領域とは、測定モードごとのキャリブレーション・データと測定条件を切り替えるために用意された一時保存領域です。

一時保存は現在の設定状態にて実行されますので、あらかじめ測定条件設定、およびキャリブレーションを実行してから、当コマンドを使用して下さい。

また、当コマンドにより拡張メモリ領域に一時保存されたキャリブレーション・データと測定条件は、電源オフまたはプリセットを実行しないかぎり保持されます。

明示的にクリアしたい場合は、プリセットを実行して下さい。

A.1.5 GPIB プログラム例

- コマンドとクエリの存在
Command のみ
- 新コマンド

| | |
|-------|---|
| コマンド | [SENSe:]CORRection[<chno>]:COLLect:COpy |
| パラメータ | なし |
| 応答形式 | なし |
- 旧コマンド

| | |
|-------|--------|
| コマンド | CXCOPY |
| パラメータ | なし |
| 応答形式 | なし |

A.1.5 GPIB プログラム例

R3967 OPT10 での 5 ポート・デバイス測定プログラム例。

CMPATH111、CMPATH122、の実行順序は関係ありません。どちらを先に実行しても構いません。

```
OUTPUT 31;" SENS:FUNC:SEL CMPAT111"      ' test adapter を ANTI Tx1 Rx1 の測定モードに設定。
OUTPUT 31;" SOUR:FREQ:STAR xx"          ' この経路でのスタート周波数を設定する。
OUTPUT 31;" SOUR:FREQ:STOP xx"         ' この経路でのストップ周波数を設定する。
OUTPUT 31;" SOUR:SWE:POIN xx"          ' この経路での測定ポイント数を設定。
OUTPUT 31;" SENS:CORR:COLL:METH F3P"    ' 3 port full calibration を実行。
OUTPUT 31;" SENS:CORR:COLL STAN1;*WAI"
```

```
OUTPUT 31;" SENS:CORR:COLL:SAVE"        ' 3 port full calibration の完了。
OUTPUT 31;" SENS:CORR:COLL:COpy"       ' calibration data を拡張メモリに保存 (コピー)。
```

```
OUTPUT 31;" SENS:FUNC:SEL CMPAT122"    ' test adapter を ANTI Tx2 Rx2 の測定モードに設定。
OUTPUT 31;" SOUR:FREQ:STAR xx"         ' この経路でのスタート周波数を設定する。(注)
OUTPUT 31;" SOUR:FREQ:STOP xx"        ' この経路でのストップ周波数を設定する。(注)
OUTPUT 31;" SOUR:SWE:POIN xx"         ' この経路での測定ポイント数を設定。(注)
OUTPUT 31;" SENS:CORR:COLL:METH F3P"    ' 3 port full calibration を実行。
OUTPUT 31;" SENS:CORR:COLL STAN1;*WAI"
```

```
OUTPUT 31;" SENS:CORR:COLL:SAVE"        ' 3 port full calibration の完了。
OUTPUT 31;" SENS:CORR:COLL:COpy"       ' calibration data を拡張メモリに保存 (コピー)。
```

(注) CMPATH111/ CMPATH122 の測定条件が同じ場合は実行の必要はありません。